本社・大阪支店 〒540 大阪市中央区城見2丁目1番61号（TWIN21 MIDタワー23階） ☎06-946-8140(代表)
東京支店 〒170 東京都豊島区東池袋3丁目1番1号（サンシャイン60・22階） ☎03-3983-9361(代表)
札幌営業所 〒060 札幌市中央区北一条西2丁目1番（札幌時計台ビル4階） ☎011-231-7712(代表)
仙台営業所 〒980 仙台市青葉区一番町4丁目6番1号（仙台第一生命タワービル15階） ☎022-221-6220(代表)
名古屋営業所 〒460 名古屋市中区栄2丁目1番1号（日土地名古屋ビル15階） ☎052-212-0541(代表)
広島営業所 〒730 広島市中区鉄砲町5番16号（広島サンケイビル9階） ☎082-222-3234(代表)
福岡営業所 〒812 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号（第3博多偕成ビル10階） ☎092-473-8034(代表)

修理のお問合せは

フリーダイヤル 東日本 0120 0120-464-007　フリーダイヤル 西日本 0120 0120-464-009

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間／10：00～17：00（月曜～金曜、祝祭日は除きます）

PS0178A

ALINCO

UHF FM HANDY TRANSCEIVER

DJ-Z40

VHF FM HANDY TRANSCEIVER

DJ-Z10

取扱説明書

ALINCOトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。
本機の機能を充分に発揮させて効果的にご使用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読み下さい。またこの取扱説明書は必ず保存下さい。
ご使用中の不明な点や不具合が生じた時お役に立ちます。
本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

アルインコ電子株式会社

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目　次

1.ご使用の前に

1-1　ご注意

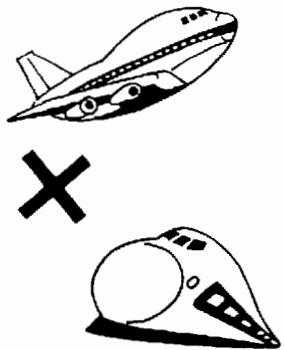
●本取扱説明書に記載されている場合を除き、ケースをはずして内部に手を触れないで下さい。

●乾電池の＋、－を正しい方向に入れて下さい。

●付属のアンテナを完全に取りつけてお使い下さい。

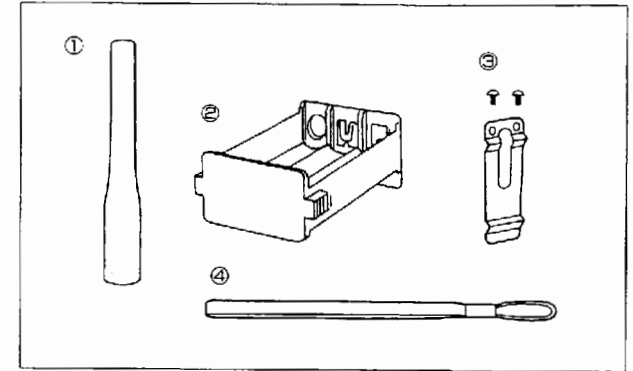
●高温、多湿、ほこりの多い場所は避けてご使用下さい。

●外部電源には必ず専用のアクティブフィルター付シガライターケーブル(EDC-36)をお使い下さい。

1-2　電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局が運用されています。これらの無線局の近くで電波を発射するとアマチュア無線局が電波法令を満足していても、思わぬ電波障害を起こすことがありますので、移動運用の際には、十分ご注意下さい。
特に次のような場所での運用は原則として行なわず、必要な場合は、管理者の承認を得るようにしましょう。
航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局及び中継局周辺など。

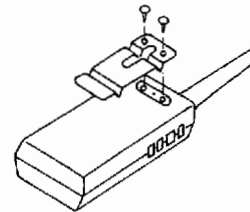
2.付属品について

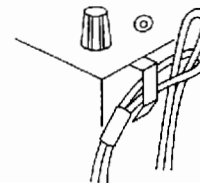
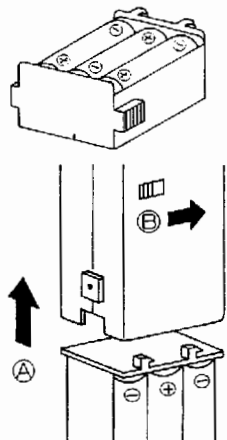
開梱しましたら付属品の確認をして下さい。

①アンテナ
②乾電池ケース
③ベルトクリップ
　(ビス2本)
④ハンドストラップ
● 取扱説明書
● 保証書

付属品の取付け方

(1)アンテナの取付け方

図のようにアンテナコネクター部を持って止まるまで押しながら右に回して下さい。

(2)ベルトクリップの取付け方

付属のベルトクリップをビス2本で本体の後側に図のように取り付けます。

(3)ハンドストラップの取付け方

電池のセット

1.バッテリーケース内の⊕、⊖の印に従い市販の単三乾電池6本を入れます。
(長時間運用のためにはアルカリ乾電池のご使用をおすすめします)

2.左図のようにバッテリーケースのツメを本体後面に合わせ、バッテリーケースを挿入します。(Ⓐ)
入りきるとカチッという音がします。
㊟ツメが逆方向になっていると入りません。無理に押込まないで下さい。

取りはずし方
バッテリーケースロックを右に押すとケースが外れます。(Ⓑ)

オプションのニッカドバッテリーEBP-30N/EBP-31N/EBP-32Nも同様の方法で着脱できます。

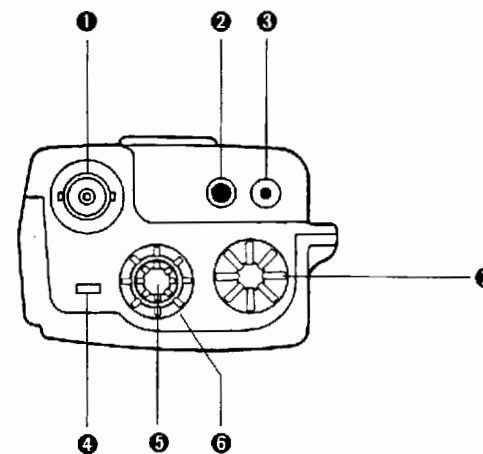
電池寿命を長くするために…
- バッテリーセーブ機能をONにする。(P37)
- 使用しない時は電源を切っておく。
オートパワーオフを設定しておくと、電源の切り忘れを防ぐことができます。(P36)
- 送信時間はできるだけ短くする。
- 近距離の交信はLOWパワーで行う。

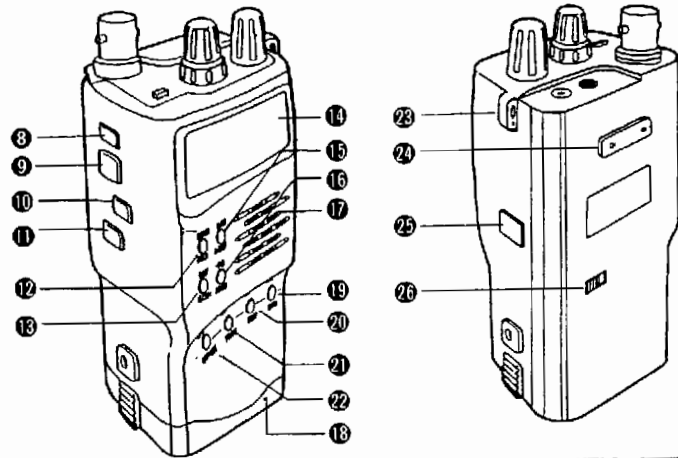
禁止事項

電源部
NiCd電池を分解したりショートさせたりしないでください。アルカリ電池、マンガン電池等充電用につくられていない電池を充電しないでください。バッテリーパック等のオプションは他社のものを使用しないでください。故障の原因となります。

本体の改造
本体の改造はおやめください。無理な改造が原因とおもわれる故障等については保証期間内であっても保証がきかなくなるうえに修理をお断わりする場合もあります。

3.各部の名称と機能

3-1 上面操作部

			ページ
❶	アンテナコネクター	付属のアンテナを接続するためのコネクターです。BNCコネクターを使用すれば外部アンテナを接続できます。	2
❷	SP端子	当社オプションのスピーカープラグ接続端子です。	—
❸	MIC端子	当社オプションのマイクプラグ接続端子です。	—
❹	ON AIR/BUSYランプ	信号を受信すると緑色に点灯し、PTT キーを押して送信中は赤色に点灯します。	10 11
❺	電源/ボリュームツマミ → VOL	電源のON/OFFおよび音量調整のツマミです。右に回すと電源が入り、さらに回すと受信音が大きくなります。	10
❻	スケルチツマミ → SQL	無信号時の"ザーッ"という音を消去するツマミです。右に回すと"ザーッ"という音が消えます。	10
❼	ダイヤルツマミ	運用周波数の設定やメモリーチャンネルの切り換えやその他各設定の切り換え等を行います。	13

3-2 前後面、側面操作部

			ページ
⑧	ファンクションキー [FUNC]	このキーと他のキーを組み合わせて使用することにより、いろいろな機能を呼び出すことができます。VFOモードでこのキーを押している間メモリーチャンネルNo.が表示されます。	5〜7
⑨	PTTキー [PTT]	このキーを押している間、送信状態になります。	11
⑩	LOW PTTキー [LOW PTT]	このキーを押している間、設定のパワーとは無関係にLOWパワーで送信します。	11
⑪	MONI・BSキー [MONI]	このキーを押している間、[SQL]ツマミの位置にかかわらず、ツマミを左に回しきった時と同じ動作になります。[F]キーを押しながら押すとバッテリーセーブ動作をON/OFFします。	10 37
⑫	CALL・BANDキー	コールチャンネルを呼び出すキーです。[F]キーを押しながら押すと、メインバンド/サブバンドの切換えを行います。	12 17・18

※PTTとLOW PTTの両方を指して[PTT]と記述します。各設定モードで[PTT]キーを押すと、送信はしないで設定を終了します。
※[FUNC]キーは[F]キーと記述します。

			ページ
⑬	V/M・MWキー	このキーを押すとVFOモードとメモリーモードが切換わります。[F]キーを押しながら押すとメモリーchの登録、消去を行います。	15〜17
⑭	LCD表示部	各機能の動作、状態を表示します。	8 9
⑮	LAMP・APOキー	このキーを押すとLCDランプが5秒間点灯します。[F]キーを押しながら押すとオートパワーオフが設定されます。	35 36
⑯	SCAN・POキー	このキーを押すとスキャン動作を行います。[F]キーを押しながら押すと送信出力パワーが切換わります。	11 19〜21
⑰	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。	—
⑱	マイクロホン	マイクロホンが内蔵されています。	—
⑲	REV・SEARCHキー	このキーを押すとリバース動作を行います。[F]キーを押しながら押すとチャンネルスコープモードになります。	22〜25 31 32 34
⑳	STEP・SKIPキー	このキーを押すとチャンネルステップ周波数の設定モードになります。[F]キーを押しながら押すとスキップメモリーを指定します。	14 21
㉑	TONE・RPTキー(DJ-Z40) TONE・SPLITキー(DJ-Z10)	このキーを押すと、トーンエンコーダ/デコーダの設定・トーン周波数の設定モードになります。[F]キーを押しながら押すと、DJ-Z40はレピーター運用モードを、DJ-Z10はスプリット動作を設定します。	30 31〜33 39 40

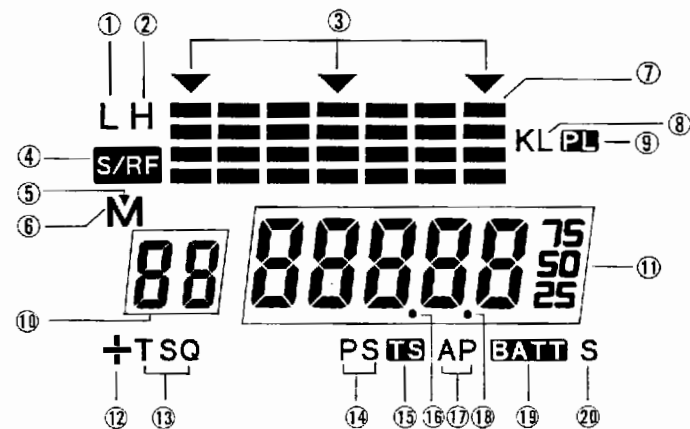
※各キーの下部の青字は[F]キーを押しながら操作した時の機能です。

ページ

㉒	OFFSET/ KL・PL キー	このキーを押すとシフト方向とオフセット周波数の設定モードになります。 F キーを押しながら押すと、キーロック、周波数ロックの設定を行います。	29 35 36
㉓	ハンドストラップ取付穴	付属品のハンドストラップを取り付けて下さい。	2
㉔	ベルトクリップ取付穴	P2を参考に付属品のベルトクリップを取り付けて下さい。	2
㉕	DC-IN	13.8Vの外部電源接続端子です。 当社オプションのアクティブフィルター付シガライターケーブル(EDC-36)を必ず使用して下さい。	—
㉖	バッテリーケースリリースキー	電池交換時、乾電池ケース、バッテリーパック等を取りはずす時に使用します。	3

※各キーの下部の青字は F キーを押しながら操作した時の機能です。

3-3 表示部

ページ

①	L	送信出力LOWパワー設定時、点灯します。	11
②	H	送信出力HIGHパワー設定時、点灯します。	11
③	▼ ▼ ▼	スプリットモード中は3つとも点灯し、チャンネルスコープ中はいずれか1つが点灯します。	22～28 32～34
④	S/RF	送信中やスケルチが開いている時に点灯します。	10 11
⑤	▼	▼が点灯しているメモリーは、メモリースキャン中にスキップされます。	21
⑥	M	メモリーモードであることを表します。	15～17
⑦	≡≡≡≡≡≡≡	送信、受信の強さをレベル表示します。	10 11 22～28
⑧	KL	キーロック状態を表します。	35 36
⑨	PL	PTTキーロック状態を表します。	

			ページ
⑩	88	メモリーNo.を表示します。	15～17
⑪	88888	送受信周波数、オフセット周波数、トーン周波数、チャンネルステップ等を表示します。	—
⑫	±	シフト方向(+、−)を表示します。	29
⑬	TSQ	トーンエンコーダ、トーンスケルチの設定状態を表示します。	30 39 31 40
⑭	PS	点灯中のスキャンはプログラムスキャンです。	19 26 20 27
⑮	TS	タイマースキャンである事を表示しています。	19 20 26 27
⑯	88888	送受信周波数オフセット周波数を表示している時のMHzデシマルポイントです。スキャン中は点滅します。	
⑰	AP	オートパワーオフ設定中に点灯します。	36
⑱	888.8	トーン周波数を表示している時のHzデシマルポイントです。	30 39 40
⑲	BATT	電池、バッテリーの容量が少なくなった状態を表します。	36
⑳	S	バッテリーセーブ設定中、点灯します。	37

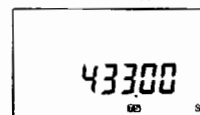
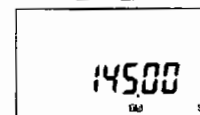
※本説明書では各操作の説明にある表示はDJ-Z40のものですが、周波数以外はDJ-Z10も同じです。

4.基本の使いかた

4-1　受信する

受信の手順

1．電源ONと音量調整

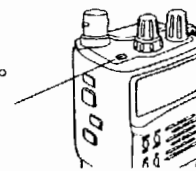
VOL を右方向に回して電源を入れます。
さらに回すと音量が大きくなります。適当な音量にして下さい。

2．スケルチを調整する。

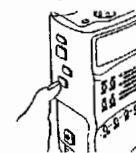
SQL をゆっくりと右に回してゆき、"ザーッ"という音が消える位置にセットします。

3．周波数を設定する。

P13「VFOモードでの周波数設定方法」に従って希望の周波数に設定して下さい。
信号を受信するとスピーカーから音声が聞こえます。

受信中の表示

①BUSYランプが緑色に点灯します。

②S/RFが点灯し、受信感度をSメータに表示します。

弱い信号の受信

MONI キーを押して下さい。スケルチが開き弱い信号も受信しやすくなります。

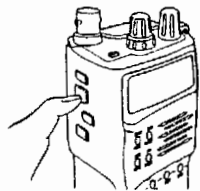
4-2　送信する

送信の手順

1．周波数を設定する

P13「VFOモードでの周波数設定方法」に従い、周波数を設定して下さい。

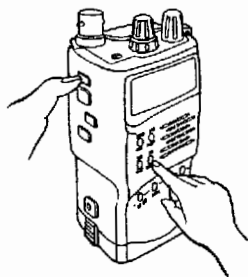
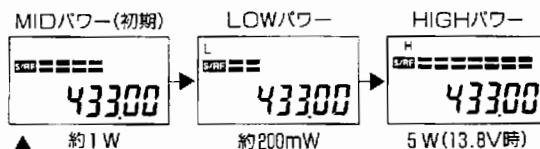
2．送信する

PTT キーを押し、本体前面部のマイクロホンに向かって話します。

送信中はON AIRランプが赤く点灯します。

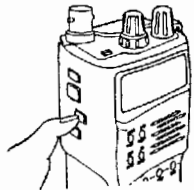
送信が終わったら PTT キーを離して下さい。
受信に戻ります。

送信出力の切換えかた

送信パワーは３段階に設定できます。

F キーを押しながら SCAN/PO キーを押します。

押す度に設定が変わります。
設定パワーにより送信中の表示が異ります。

LOWパワーで送信する

設定パワーにかかわらずLOWパワーで送信します。

LOW PTT キーを押し、本体前面部のマイクロホンに向かって話します。

LOW PTT キーを押している間はLOWパワーで送信し､キーを離すと元の設定に戻ります。

送信中

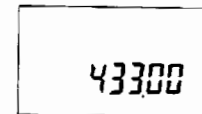
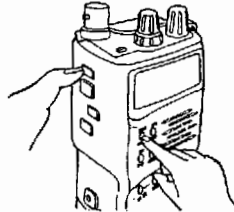
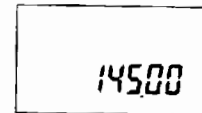
4-3　メインバンドとサブバンドについて

DJ-Z40/DJ-Z10はメインバンドとサブバンドの２つの周波数帯が使用できます。メインバンドでは送信と受信ができますが、サブバンドでは受信しかできません。

	メインバンド 送受信範囲	サブバンド 受信範囲
DJ-Z40	430.00～439.995	144.00～145.995
DJ-Z10	144.00～145.995	430.00～439.995

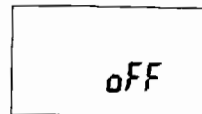
(単位：MHz)

サブバンドを受信する

① V/M・MW キーを押してVFOモードにします。
Mや©が点灯している時はバンド帯はそのままで、VFOモードになります。

② F キーを押しながら CALL/BAND キーを押します。

サブバンド受信に変わります。

(解 除) もう一度同じ操作をするとメインバンドに戻ります。

サブバンド操作

・ PTT キーを押しても送信できません。
"OFF" が表示されます。

・トーン設定、シフト設定、スプリット(リバース)設定はできません。無効音が鳴ります。

4-4　VFOモードでの周波数の設定方法

本機にはVFOモード、メモリーモード、コールモードの3つの運用モードがあります。最初に電源を入れた時に表示されるのがVFOモードで簡単に周波数を変更したり、各種機能が設定できます。

周波数を設定する

1. VFOモードにする

他のモードなら下の"運用モードの切換え"に従ってVFOモードにします。

VFOモードは周波数の左にMもCも点灯しません。

433.00

2. チャンネルステップ単位で変化させる

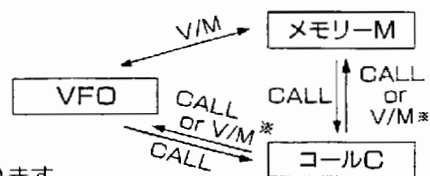
ダイヤルを回すと1チャンネルステップ単位でVFO周波数が変わります。

右に回すとUPし、左に回すとDOWNします。
チャンネルステップの初期値は20kHzです。
変更の方法はP14をお読み下さい。

3. 1MHz単位で変化させる

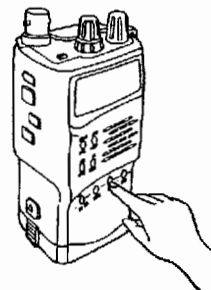
F キーを押しながらダイヤルを回すと1MHz単位で周波数が変わります。

右に回すとUPし、左に回すとDOWNします。

運用モードの切換え

※コールCにする前のモードに戻ります。

チャンネルステップを変更する

チャンネルステップ周波数はVFO周波数、オフセット周波数(P29)、スキャン(P19)、チャンネルスコープ(P22)時の基本単位となる周波数です。初期値は20kHzですが、変更することができます。

①VFOモードで、STEP/SKIPキーを押します。

チャンネルステップ設定モードになり、現在の設定値が表示されます。(単位kHz)

メインバンド/サブバンドは別々に設定できます。

20.0

②ダイヤルにより、以下のいずれか選べます。

5.0 ─ 10.0 ─ 12.5 ─ 15.0 ─ 20.0 ─ 25.0 ─ 30.0 ─ 50.0 (kHz)

(終了) V/M MW 、 STEP SKIP 、 PTT キーのいずれかを押します。

(注意) メモリーモードやコールモードでは動作せず、無効音が鳴ります。

周波数の補正について

チャンネルステップ変更の直後に1ステップ周波数分UP/DOWNすると、自動的に周波数が補正される場合があります。

(例)チャンネルステップ10kHzで433.21MHz時にステップを20kHzに変更した場合
→1ステップUPすると433.22MHzになる。

5.メモリーモードとコールモード

5-1 メモリーチャンネルの使いかた

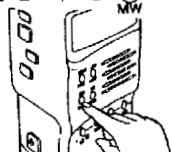
よく使う周波数や運用設定をメモリーチャンネルに登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。本機には以下のメモリーがあります。

メモリーNo.	内　　容	初　期　値
ch 0～79	メモリーチャンネル	な　し
H、L	プログラムスキャンエッジ周波数	DJ-Z40 433.00MHz DJ-Z10 145.00MHz
C	コールチャンネル	

メモリーに登録できる情報
①受信周波数
②シフト方向
③オフセット周波数
④トーン設定・周波数

メモリーチャンネルデータの呼び出しかた

1. メモリーモードにする

VFOモードで V/M MW キーを押します。

Mとメモリー№が表示され、メモリーモードになります。

M 1 433.00

2. メモリー№を選択する

ダイヤルでチャンネルを選択します。

呼び出し順

ch 1 → 79 → C
↑　　　　　↓
ch0 ← H ← L
(DOWN時は逆方向)

	UP	DOWN
1ch単位	ダイヤル右回し	ダイヤル左回し
10ch単位	F キーを押しながら ダイヤル右回し	F キーを押しながら ダイヤル左回し

M表示について

M 10 436.00　M点灯 メモリー登録されたデータを表示します。

M 11 433.00　M点滅 データ登録されていません。VFOデータを表示します。

C、L、Hの時10ch単位のUP/DOWNは受付けません。

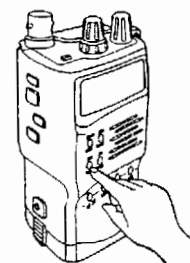
メモリーchにデータを登録する

工場出荷時にはメモリーch 0～79にはデータが登録されていません。
メモリーchを運用するにはまずデータの書き込みを行って下さい。

1. 周波数を設定する

VFOモードで登録したい周波数に設定して下さい。
その他シフト方向、オフセット周波数、トーン周波数等を必要に応じて設定して下さい。

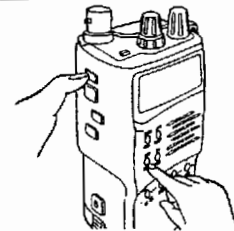
2. メモリーchを選ぶ

① V/M MW キーを押しメモリーモードにします。

② ダイヤルにて登録するチャンネルを選択して下さい。

③ V/M MW キーを押しVFOモードに戻します。

M 2 436.00

3. メモリーに登録する

F キーを押しながら V/M MW キーを押します。

完了音が鳴り、メモリーに登録されました。
Mは点灯し、F キーを離すと消灯します。
M点灯チャンネルを選んで登録すると古いデータが消えてしまいます。

M 2 436.00

メモリーモードでの登録のしかた

メモリーモードでM点滅時(メモリーchにデータがないことを表します)に F キーを押しながら V/M MW キーを押すと表示データがメモリー登録されます。Mは点滅から点灯に変わります。

メモリーデータを消去する

1．メモリーモードにする

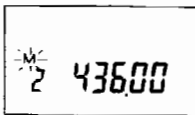
2．メモリーchを選ぶ

メモリーモードで消去したいメモリーch(M点灯)を選びます

3．データを消去する

F キーを押しながら V/M MW を押します。

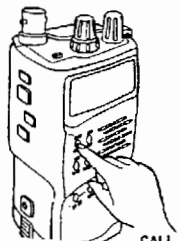
完了音が鳴り、データが消去されました。
周波数等の表示はそのままでMが点滅します。もう一度 F キーと V/M MW キーを押すとデータが再登録されます。

M 2 436.00

(注意) データ消去後、チャンネルを変えたり、他のモードに変えたりするとデータの再登録はできません。VFOデータが表示されます。

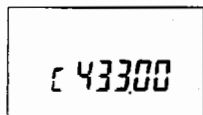
5-2 コールチャンネルの使いかた

呼び出し周波数(コールチャンネル)を運用するモードです。
コールチャンネルはメモリーCに記憶されており(P15)通常のメモリーと同様に使うことができます。

コールチャンネルの呼び出しかた

VFO又はメモリーモードで CALL BAND キーを押します。

Cが表示し、コールモードになります。

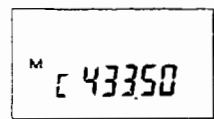
工場出荷時周波数
DJ-Z40　433.00MHz
DJ-Z10　145.00MHz

C 433.00

CALLモードで CALL BAND キーか V/M MW キーを押すと元のVFOかメモリーモードに戻ります。

コール周波数を変更する

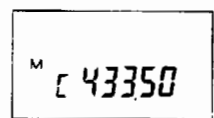
1．メモリーモードでCチャンネルを選ぶ

メモリーモードで ダイヤル を回してメモリーCを呼び出します。

M C 433.50

2．周波数を設定する

① V/M MW キーを押し、VFOモードにします。

②新しいコール周波数を設定して下さい。

M C 433.50

3．メモリーに登録する

F キーを押しながら V/M MW キーを押します。

6. 各機能のつかいかた

6-1　スキャン

スキャンとは周波数やメモリーchを自動的に変化させ、信号の出ているチャンネルを探す機能です。スキャン方法は次の3通りあります。

■プログラムスキャン　　バンド内の指定範囲をスキャンします。
　　　　　　　　　　　エッジ周波数はメモリーH（上限）とL（下限）に記憶しておきます。

■バンドスキャン　　　バンド内の全範囲をスキャンします。

■メモリースキャン　　メモリーch（0〜79）をスキャンします。

■タイマースキャン　　スキャン停止後、5秒経過するか、5秒以内に信号がなくなるとスキャンを開始します。

● いずれも最後にUP/DOWN操作した方向にスキャンを行います。

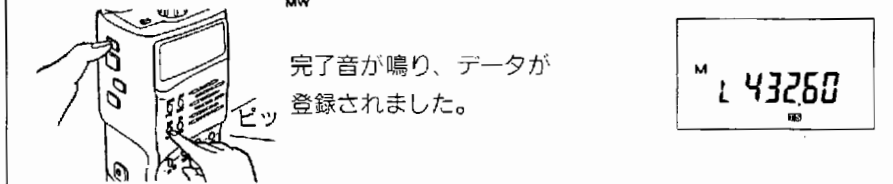
> プログラムスキャン実行後、バンドスキャンを行う場合は、
> メモリーL≧H　となるようにエッジ周波数を設定して下さい。

プログラムスキャン　メモリーLとHの間をスキャンします。

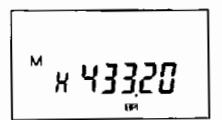
1. 下限周波数（L）を設定する

①メモリーモードでメモリーLを選択します。
② V/M MW キーでVFOモードにします。
③下限周波数を設定します。
④**F**キーを押しながら V/M MW キーを押します。

完了音が鳴り、データが登録されました。

M L 432.60

2. 上限周波数（H）を設定する

同上の手順でメモリーHに上限周波数を登録します。

M H 433.20

（注意）同一バンド内で、必ずメモリーHの周波数がメモリーLより大きくなるように設定して下さい。それ以外の場合はバンドスキャンになります。

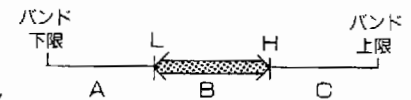
3. スキャンの開始と終了

スタート　VFOモードで SCAN PO キーを押します。

PSが点灯、デシマルポイントが点滅し、チャンネルステップ単位でスキャンを行います。

ストップ　V/M MW 、SCAN PO 、**PTT** キーを押します。
PSは消灯します。

プログラムスキャン範囲

プログラムスキャンスタート位置が右図A、B、Cいずれの場合もBの範囲をスキャンします。

バンドスキャン　バンド内の全範囲をスキャンします。

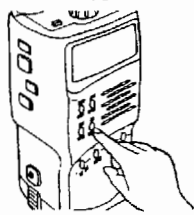
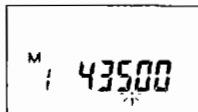
プログラムスキャンの上下限周波数設定と同じ手順で、Lチャンネル周波数≧Hチャンネル周波数となるようにメモリーLチャンネル、Hチャンネルに登録します。

スタート　① V/M MW キーでVFOモードにします。
　　　　　② SCAN PO キーを押します。

デシマルポイントが点滅し、チャンネルステップ単位でスキャンを行います。

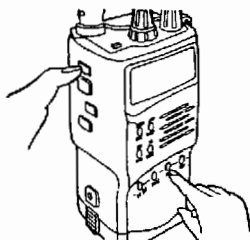
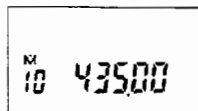
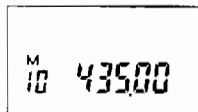
ストップ　V/M MW 、SCAN PO 、**PTT** キーのいずれかを押します。

メモリースキャン

スタート ① V/M MW キーでメモリーモードにします。
② SCAN PO キーを押します。

ストップ V/M MW 、SCAN PO 、PTT キーのいずれかを押します。

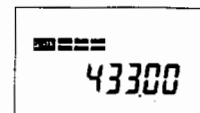
スキャンしないメモリーを設定(スキップ)

メモリースキャン時にスキャンされないchを設定できます。

① V/M MW キーでメモリーモードにします。
②スキップするメモリーを選びます。
③ F キーを押しながら STEP SKIP キーを押します。

(解 除) ▼が点灯中に同じ操作を行うと▼は消灯し再びスキャンの対象となります。

6-2 チャンネルスコープ

チャンネルスコープとは周波数表示チャンネルを受信しながら、周辺のチャンネルの受信状況をレベル表示する機能です。

〈通常受信時〉

Sメーター横方向に7レベルで表示します。

〈チャンネルスコープ中〉

表示周波数(▼点灯)を中心に7チャンネルの受信レベルをタテ方向に4レベルで表示します。

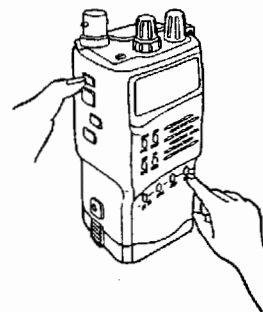
- 表示周波数をセンター周波数(センターチャンネル)といいます。
- センター周波数を5秒間受信する毎に上下各3チャンネルのレベル表示を更新します。

チャンネルスコープには次の2種類あります。

■VFOチャンネルスコープ　　チャンネルステップ単位でレベル表示します。
■メモリーチャンネルスコープ　隣り合ったメモリーchの周波数をレベル表示します。

VFOチャンネルスコープ

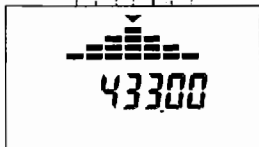
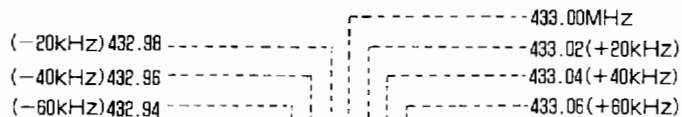
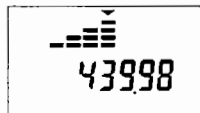
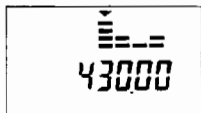
1. チャンネルスコープの開始と終了

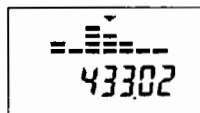
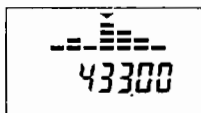
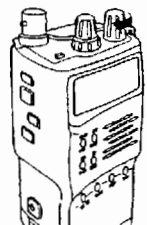
スタート ① V/M MW キーでVFOモードにします。
② F キーを押しながら REV SEARCH キーを押します。

チャンネルスコープモードで受信します。

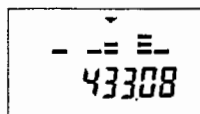
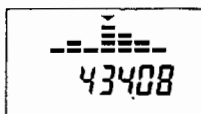
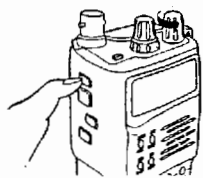
センター周波数を5秒間受信する毎にチャンネルステップ刻みで上下各3チャンネルの受信レベルを表示します。

ストップ V/M MW 又は、F キーと REV SEARCH キーを押します。

2．レベル表示の見方

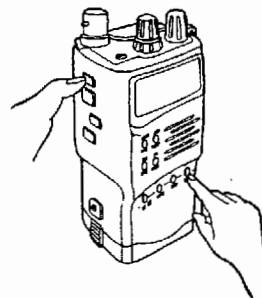
(例)チャンネルステップ20kHzの場合

●バンドの範囲をこえるチャンネルはレベル表示しません。

3．センター周波数を変更する

●ダイヤルを右に回すとチャンネルステップ分センター周波数がUPし、ダイヤルを左に回すとDOWNします。

7チャンネルのレベル表示は1つずつ左右にずれます。

●[F]キーを押しながらダイヤルを右に回すとセンター周波数が1MHzUPし、左に回すとDOWNします。

新しいセンター周波数を中心に7チャンネルのレベルを表示します。

メモリーチャンネルスコープ

1．チャンネルスコープの開始と終了

スタート ① V/M MW キーでメモリーモードにし、M点灯チャンネルを選びます。
②[F]キーを押しながら REV SEARCH キーを押します。

チャンネルスコープで受信します。

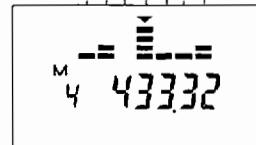
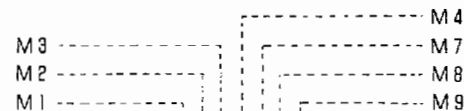
センターチャンネルを5秒間受信する毎に隣り合ったチャンネルを上下各3チャンネルずつの受信レベルを表示します。

ストップ V/M MW 又は、[F] キーと REV SEARCH キーを押します。

注意 ●M点滅チャンネルやメモリースキップ指定チャンネルメモリーC、L、Hチャンネル表示中にスタート操作を行っても無効音が鳴り、チャンネルスコープモードにはなりません。

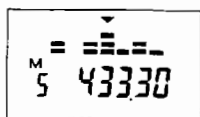
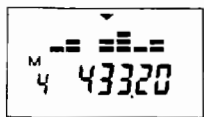
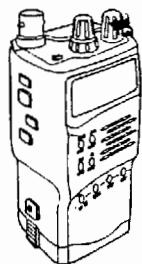
●メモリーチャンネルの上限、下限をこえるレベルは表示しません。

2．レベル表示の見方

(例)M5、M6にデータがない場合

●M点滅チャンネルやスキップメモリー(P21)は対象外です。

2．センターチャンネルを変更する

を右に回すとセンターチャンネルのメモリーナンバーがUPし、を左に回すとDOWNする。

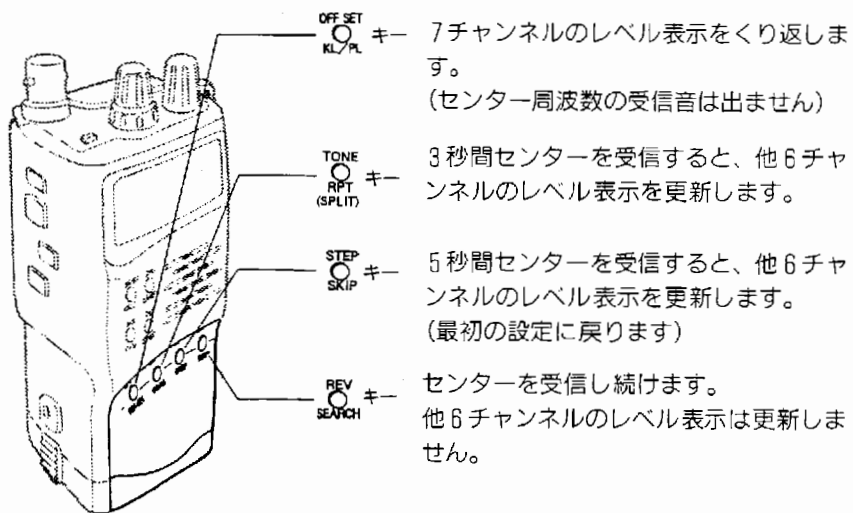
M 4 433.20　　M 5 433.30

7チャンネルのレベル表示は1つずつ左右にずれます。

スコープモードでの操作

VFOスコープ、メモリースコープに共通です。

1．センター周波数(チャンネル)の受信時間を変更する

センター周波数の受信時間は、スコープ受信開始時は5秒に設定されていますが、一時的に変更することができます。

スコープモードで受信中に下図のキーを押します。

OFF SET KL/PL キー　7チャンネルのレベル表示をくり返します。（センター周波数の受信音は出ません）

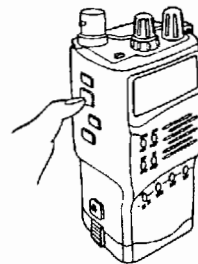
TONE RPT (SPLIT) キー　3秒間センターを受信すると、他6チャンネルのレベル表示を更新します。

STEP SKIP キー　5秒間センターを受信すると、他6チャンネルのレベル表示を更新します。（最初の設定に戻ります）

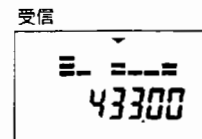
REV SEARCH キー　センターを受信し続けます。他6チャンネルのレベル表示は更新しません。

- 信号の有無にかかわらず指定した時間、センター周波数で受信します。
- 受信時間の変更はスコープを終了するまで有効です。
  スコープを終了すると、5秒受信に戻ります。

2．スコープモードで送信する

スコープ中に **PTT** キーを押すとセンター周波数で送信します。

送信中は7チャンネルのレベル表示を中断し送信出力を横方向に表示します。

受信　433.00

送信　433.00

PTT キーを離すと再びスコープモードで受信します。

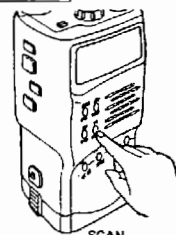
スコープモード受信時の注意

- トーンスケルチ(P39)が設定されていてもチャンネルスコープ中は一時的に解除されます。
- **センター周波数で受信している時、時々音声が途切れることがあります。これは5秒(または3秒)に1回周辺チャンネルのレベル表示を更新しているためです。**

VFOチャンネルスイープスキャン

スイープスキャンとは周波数を切りかえながら、各チャンネルの受信レベルを順に表示する機能です。　**音声は聞こえません。**

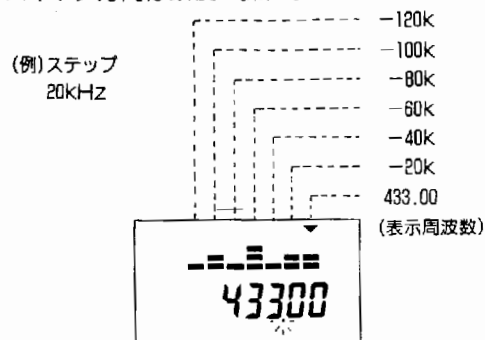
1．バンドスイープスキャンの開始と終了

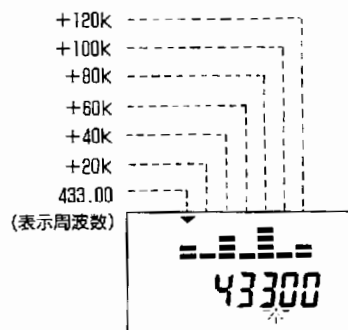
スタート　VFOチャンネルスコープ中に SCAN PO キーを押します。

デシマルポイントが点滅し、バンド内を最後に操作した方向にスイープスキャンをします。
エッジ周波数メモリーLとHの値によりスキャン範囲が異なります。

- メモリーL≧Hの場合（出荷時、及びリセット時）
  バンド間全範囲をスキャンします。
- メモリーL＜Hの場合
  メモリーLとHの周波数範囲をスキャンします。

ストップ　SCAN PO キーか **PTT** キーを押すとVFOチャンネルスコープモードに、V/M MW キーを押すと、VFO通常受信モードに戻ります。

2. レベル表示の見方

スキャン方向は最後に操作した方向になります。

〈UP方向スキャン〉

表示周波数を1ステップずつUPしながらレベル表示します。

〈DOWN方向スキャン〉

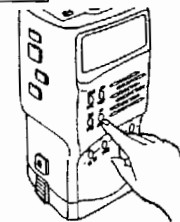
表示周波数を1ステップずつDOWNしながらレベル表示します。

🎛により、スキャン方向は変えられます。

メモリースイープスキャン

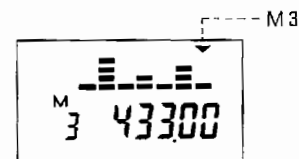
メモリー周波数をスイープスキャンします。

1. メモリースイープスキャンの開始と終了

[スタート] メモリーチャンネルスコープ中に SCAN/PO キーを押します。

デシマルポイントが点滅し、M点灯メモリーをスイープスキャンします。

[ストップ] SCAN/PO キーか [PTT] キーを押すとメモリーチャンネルスコープモードに、V/M/MW キーを押すとメモリー通常受信モードになります。

2. レベル表示の見方

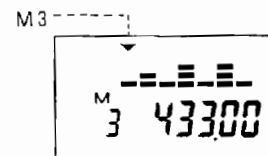
スキャン方向は最後に操作した方向になります。

〈UP方向スキャン〉

表示メモリーを右端に、番号の小さい方に隣接する6メモリーの受信レベルを表示します。

1チャンネルずつUPしながらレベル表示します。

〈DOWN方向スキャン〉

M3

M 3 43300

表示メモリーを左端に、番号の大きい方に隣接する6メモリーの受信レベルを表示します。

1チャンネルずつDOWNしながらレベル表示します。

🎛によりスキャン方向は変えられます。

6-3　シフト方向とオフセット周波数

受信周波数に対して送信周波数をオフセット周波数ぶんだけ「+」または「−」方向にシフトする機能です。

シフト方向を設定する

DJ-Z40、DJ-Z10で若干操作が異ります。

OFFSET KL/PL キーを押します。

押す度に設定が変わります。
−シフト、+シフト設定時にはオフセット周波数が表示されます。(表示例はDJ-Z40)

Z40でVFOモードで操作した時のみ+シフトの次にスプリットモードに設定されます。スプリットモードについて、Z10でのスプリットモードの設定方法についてはP32「スプリット」をお読み下さい。

オフセット周波数を設定する

オフセット周波数表示中に右図に従って設定して下さい。

- 設定範囲　0〜15.995MHz
- 初期値　5MHz　(DJ-Z40)
  0.6MHz (DJ-Z10)

	UP	DOWN
1チャンネルステップ単位		
1MHz単位	Fキーを押しながら	Fキーを押しながら

(終了) V/M MW 、PTT キーを押します。
TONE RPT キー(Z10は TONE SPLIT キー)でトーン設定モードへ STEP SKIP キーでチャンネルステップ設定モードになります。

6-4　トーンエンコーダとトーン周波数

トーンエンコーダを設定すると送信時にトーン信号が付加されます。
オプションのトーンスケルチユニット(EJ-16U)を装着した場合はP39を参照して下さい。

トーンエンコーダに設定する

1. トーンエンコーダモードに設定する

TONE RPT (Z10は TONE SPLIT)キーを押します。

Tが点灯し、トーン周波数が表示されます。
(初期値88.5Hz)

2. トーン周波数を設定する

トーン周波数表示中にダイヤルにより39チャンネルが切換わります。

トーン周波数一覧表
(単位Hz)

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7
82.5	85.4	88.5	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9
186.2	192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3			

(終了) V/M MW 、PTT キーを押します。
OFFSET KL/PL キーでオフセット設定モードに、STEP SKIP キーでチャンネルステップ設定モードになります。

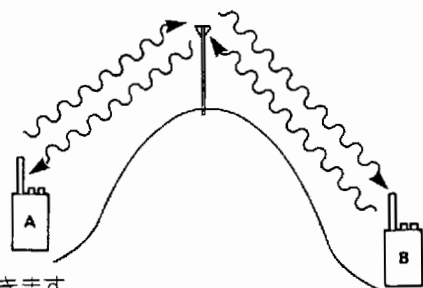
3. トーン設定を解除する

トーン周波数表示中に TONE RPT キー(Z10は TONE SPLIT キー)を押すとTが消え、解除されます。
オプション装着時はTが消えるまで数回操作して下さい。

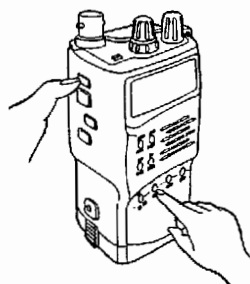
T点灯中に TONE RPT キー(Z10は TONE SPLIT キー)を押すと設定はそのままでトーン周波数が表示されます。

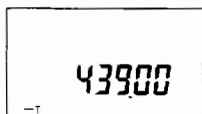
43300　885

6-5　レピーターのつかいかた

レピーターとは遠く離れた局どうしの交信を可能にする無線中継局です。
430MHz帯のレピーターをアクセスするためには88.5Hzのトーン周波数と、「ー」方向に5MHzシフトして送信する必要があります。
DJ-Z40はこれらの設定を簡単に行うことができます。

レピーター運用時の設定をする

DJ-Z10にはこの機能はありません。

① V/M MW キーでVFOモードにします。
② F キーを押しながら TONE RPT キーを押します。

自動的に－5MHzシフト、トーン周波数88.5Hzに設定されます。

43900
−T

（解除）

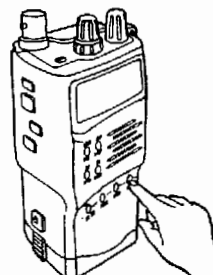
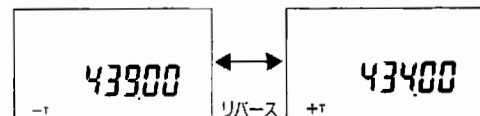
シフト方向	なし	運用前の状態とは関係なく設定されます。
オフセット周波数	5MHz	
トーン設定	なし	
トーン周波数	88.5Hz	

（注意）メモリーモード、CALLモードでは動作しません。
オフセット周波数5MHz、トーン周波数88.5Hz以外に設定していて、レピーターモードに設定し、解除した場合は各々5MHz、88.5Hzになります。

6-6　リバース

レピーターを使わずに相手局と交信できるかどうかを調べるために送信周波数と受信周波数を入れ換える機能をリバースといいます。

リバースモードで受信する

REV SEARCH キーを押します。

送受信周波数が入れ換わり、シフト方向が逆になります。

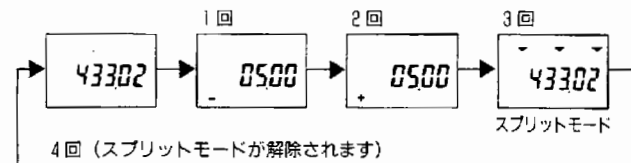
（解除）同操作で元の状態に戻ります。

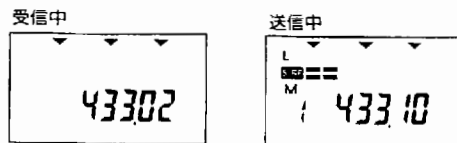
（注意）シフト方向が設定されていない場合や、リバースによりバンド範囲外になる場合は動作しません。無効音が鳴ります。

6-7　スプリット

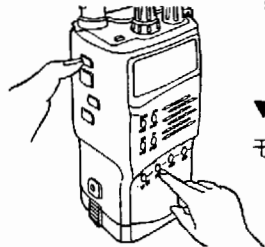
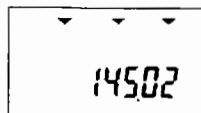
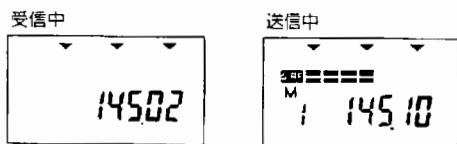
スプリットとはVFO周波数で受信し、メモリーに書き込まれた周波数で送信する機能です。VFOモードでのみ働きます。サブバンド側で設定できません。

スプリットモードで交信する DJ-Z40

① V/M MW キーでメモリーモードにし、送信したい周波数を書き込んだチャンネルを選びます。
② V/M MW キーでVFOモードにし受信したい周波数を選びます。
③ OFFSET KL/PL キーを3回押してスプリットモードに設定して下さい。

▼がディスプレイ上部に3つ点灯し、スプリットモードになります。

④PTTを押すと選んだメモリーチャンネルで送信し、離すとVFO周波数で受信します。

（解除）【OFF SET・KL/PL】キー又は【V/M・MW】キーで解除されます。

スプリットモードで交信する DJ-Z10

① 【V/M・MW】キーでメモリーモードにし、送信したい周波数を書き込んだチャンネルを選びます。
② 【V/M・MW】キーでVFOモードにし受信したい周波数を選びます。
③ 【F】キーを押しながら【TONE・SPLIT】キーを押します。

▼が３つ点灯し、スプリットモードになります。

④PTTを押すと選んだメモリーチャンネルで送信し、離すとVFO周波数で受信します。

（解除）①と同じ操作、又は【V/M・MW】キーで解除されます。

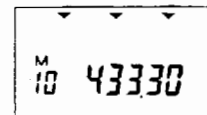
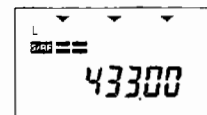
スプリットモード中の注意事項

- 次の操作はできません。無効音がなります。
  【CALL・BAND】キー、【F】キーと【CALL・BAND】キー、【F】キーと【REV・SEARCH】キー
- メモリーモードでシフト方向が設定されている場合はシフトをして送信されます。

スプリット リバース

スプリットモードでリバース操作を行うとメモリー周波数で受信し、VFO周波数で送信します。

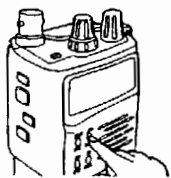
スプリット動作中に【REV・SEARCH】キーを押します。

スプリットリバースモードになりメモリーモードになります。

送信中はVFOモードになります。

（解除）同操作を行うとスプリットモードになります。
【V/M・MW】キーでスプリットリバースを解除しメモリーモードになります。

※クロスバンドデュプレクスを行なう時は、サブバンド側の周波数をメモリーに記憶させて、メインバンド側をVFOモードにしてスプリットリバース操作を行なって下さい。

6-8 ディスプレイランプ

ランプを5秒間点灯する

LAMP/APO キーを押します。

ディスプレイランプが5秒間点灯しますが、点灯中に LAMP/APO キーを押すとランプが消えます。
操作中ランプは点灯したままで、操作終了後5秒でランプは消えます。

ランプを常灯する

LAMP/APO キーを押しながら電源を入れるとランプが常灯します。

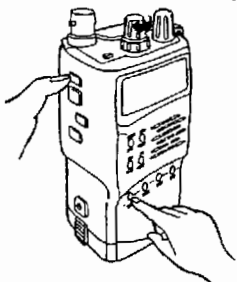
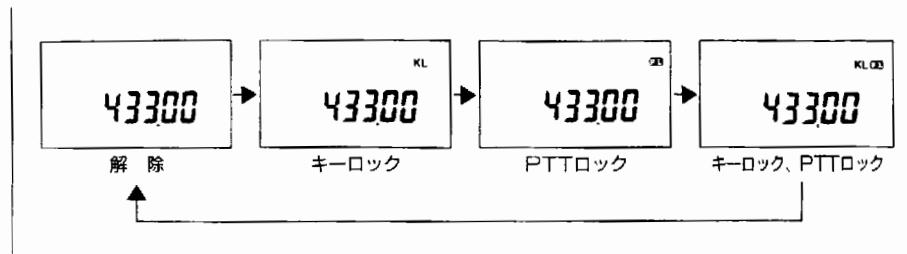
点灯中に LAMP/APO キーを押すと、ランプは消え、もう一度押すと点灯します。
常灯中、電源を切→入しても常灯のままです。

(解除) 常灯中に LAMP/APO キーを押しながら電源を入れるとランプは消えます。
LAMP/APO キーを押すと5秒間点灯します。

6-9 キーロック/PTTロック

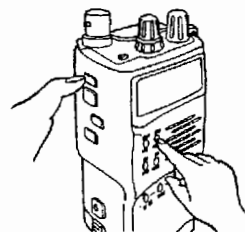
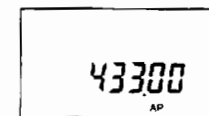
キー操作をロックする

キー操作をロックすることにより、誤って周波数を変えたり、送信を行ったりすることを防ぎます。

[F] キーを押しながら OFFSET/KL/PL キーを押します。

キーを押すたびに設定が変わります。
キーロック(KL点灯)中
[PTT]、[MONI]、LAMP/APO キーのみ受付けます。
つまみも無効です。
PTTロック(PL点灯)中送信できません。

6-10 オートパワーオフ

オートパワーオフとは、30分間操作や受信がなければ自動的に電源が切れる機能です。電源スイッチの切り忘れを防ぎます。

オートパワーオフを設定する

[F] キーを押しながら LAMP/APO キーを押します。

APが点灯し、30分のパワーオフタイマーが設定されます。

(解除) 同操作で解除されます。(APは消灯)

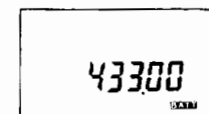
■AP点灯から30分間無信号、無操作が続くとメロディ音が鳴ります。鳴り終わると自動的に電源が切れますが、一部の半導体は通電状態にあります。早めに [VOL] を左に回して電源を切って下さい。

■オートパワーオフ状態から電源を入れる場合は一度 [VOL] を左に回して電源を切った後、再び電源を入れて下さい。

■チャンネルスコープモードでは、オートパワーオフは働きません。

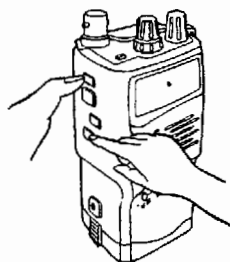
6-11 バッテリー表示

電池が消耗し、残り容量が少なくなるとBATTが点灯します。
電池交換はP3をお読み下さい。

433.00 BATT

6-12 バッテリーセーブ

バッテリーセーブをONにすると無駄な電池の消耗を防ぐことができます。キー操作や信号のない状態が5秒続くと、自動的に内部の電源をON(200ms)/OFF(400ms)をくり返します。
初期状態はONに設定されています。

バッテリーセーブをOFFにする

[F] キーを押しながら [MONI] キーを押します。

Sが消灯しバッテリーセーブ動作は行いません。

バッテリーセーブON

433.00

OFF

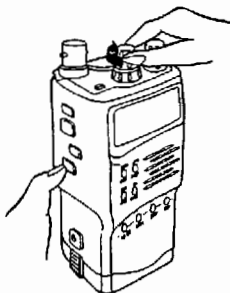
433.00

[再設定] 同操作でONになります。

6-13 ビープ音

キーを押した時のピッという音を鳴らないようにできます。

ビープ音をOFFにする

[MONI] キーを押しながら電源を入れます。

キーを押しても音は出なくなります。

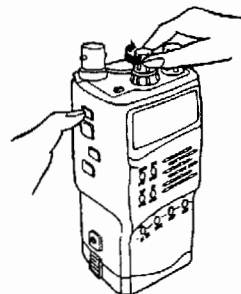
オートパワーオフ時のメロディ音も出なくなります。

[再設定] 同操作で再び鳴り始めます。

6-14 リセット

リセット操作を行うと各種の設定やメモリーチャンネルの内容を工場出荷時の初期状態に戻ります。

リセットする

[F] キーを押しながら電源を入れます。

[F] キーを押している間ディスプレイが全点灯し、離すと通常の状態に戻ります。

全点灯

↓

433.00

工場出荷時、
リセット時のデータ

	DJ-Z40	DJ-Z10
VFO周波数	433.00MHz	145.00MHz
チャンネルステップ	20kHz	20kHz
シフト方向	なし	なし
オフセット周波数	5 MHz	0.6MHz
トーン設定	なし	なし
トーン周波数	88.5Hz	88.5Hz
メモリーchデータ	なし	なし
メモリーNo.	1	1
CALL周波数	433.00MHz	145.00MHz
プログラムスキャンエッジ周波数	433.00MHz	145.00MHz
バッテリーセーブ	ON	ON
オートパワーオフ	OFF	OFF

リセット時の注意事項

この動作を行なうとメモリーデーター等は全て消えてしまいますのでご注意下さい。

7.オプション機能

7-1　トーンスケルチ

オプションのトーンスケルチユニット(EJ-16U)を装着すると動作する機能です。トーンスケルチ設定中は自局と同じトーン信号を含む信号を受信した時にスケルチが開き、受信音が聞こえます。
トーン信号は通常は送信時と受信時は同じ周波数ですが、メモリーチャンネル70~79の場合のみ送受別のトーンの周波数を設定することができます。

トーンスケルチに設定する

1．トーンスケルチモードに設定する

TONE/RPT (Z10は TONE/SPLIT)キーを2回押します。

TSQが点灯し、現在のトーン周波数を表示させせます。

2．トーン周波数を設定する

トーン周波数表示中にダイヤルによりトーン39チャンネル波が切換わります。
(トーン周波数一覧P30)

(終了) V/M MW 又は、PTT キーを押すと元の表示に戻ります。

3．トーンスケルチを解除する

TSQ点灯中に TONE/RPT (Z10は TONE/SPLIT)キーを押します。

TSQ点灯中の送信と受信

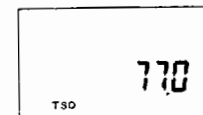
送信…設定したトーン信号が付加されて送信します。
受信…設定したトーン信号を含む信号を受信するとスケルチが開きます。

- MONI キー押下中は一時的にトーンスケルチは解除されます。
- レピータで交信する場合はトーン周波数はレピータによりカットされますのでトーンスケルチは設定しないで下さい。
- チャンネルスコープモードでは、トーンスケルチは解除されます。

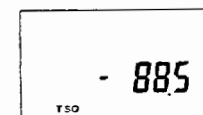
送受別のトーン周波数を設定する

1．送信時のトーン周波数を設定する

①メモリーモードにし、ch70~79のいずれかを呼び出します。
② TONE/RPT (Z10は TONE/SPLIT)キーを2回押します。
③ダイヤルにより、送信時のトーン周波数を選択して下さい。

770 TSQ

2．受信時のトーン周波数を設定する

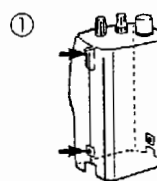
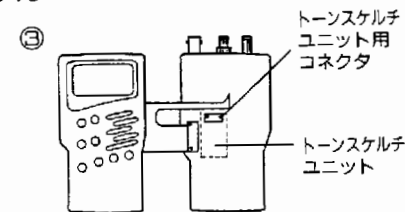
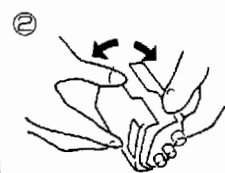
④ TONE/RPT (Z10は TONE/SPLIT)キーを押します。
受信時のトーン周波数には、送信時と区別するために'–'が表示されます。

- 885 TSQ

⑤ダイヤルにより、受信時のトーン周波数を選択して下さい。

(注意) V/M MW 、PTT キーを押すと元の表示に戻ります。
トーン設定をメモリーに登録しておくと、設定内容は保持されます。

必ず電源を切ってから取付けて下さい。

①

バッテリーケースを外しドライバーで5箇所のネジをはずします。

② 本体を前面部と後面部に開いて下さい。

③

トーンスケルチユニットをコネクタに差し込んで下さい。

④本体を閉じてネジを取付けます。

8.故障とお考えになる前に

症　　状	原　　因	処　　置	ページ
電源スイッチを入れてもディスプレイは何も表示しない。	a.バッテリーケースの接触不良 b.電池の+、-の極性が逆 c.電池の消耗	a.バッテリーケースの電極のよごれなどを確認する。 b.極性を確認して電池を入れなおす。 c.乾電池は新しい電池と交換、Ni-Cd電池は充電する。	3
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	a.［VOL］を左方向に絞りすぎている。 b.スケルチが閉じている。 c.トーンスケルチが動作している。 d.［PTT］キーが押され送信状態になっている。	a.［VOL］を適当な音量にセットする。 b.［SQL］を左に回す。 c.トーンスケルチ動作を解除する。 d.［PTT］キーをはなす。	10 39
スキャンしない。	スケルチが開いている。	［SQL］を雑音の消える位置にセットする。	10
周波数が変えられない。	a.CALLモードである。 b.周波数ロック(KL)機能が働いている。	a.VFOモードにする。 b.周波数ロック機能を解除する。	13 35
送信中に表示が点滅したり表示が全て消えたりする。	電池の消耗	交換、または充電する。	3
送信しない。	a.電池の消耗 b.PTTロック機能(PL)が働いている。	a.交換、または充電する。 b.PTTロック機能を解除する。	3 35

9.保　守

9-1　アフターサービス

❶保証書

保証書は必ず所定事項(ご購入店名、ご購入日)の記入および、記載内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。

❷保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合は、お手数ですが、製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談下さい。保証書の規定に従って修理いたします。

❸保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店または、当社サービス窓口にご相談下さい。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。
アフターサービスについて、ご不明な点は、お買い上げの販売店または、当社サービス窓口にご相談下さい。

9-2　バックアップ

本機にはメモリーチャンネルの内容や、各設定内容が電源を切っても保持するバックアップ機能を備えています。

10.申請書の書き方

本機は「技術基準適合証明」を受けた機械ですので、市販の申請用紙の「無線局事項書を及び工事設計書」には以下のように、記入して下さい。

²¹希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式					
周波数帯	空中線電力	電波の型式	周波数帯	空中線電力	電波の型式
❶ 144M	10	F3			
❷ 430M	10	F3			

²² 工事設計		第1送信機	第2送信機	第3送信機	第4送信機
変更の種別		取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更
❸ 技術基準適合証明番号		XXXXX			
❹ 発射可能な電波の型式 周波数の範囲					
変調の方式					
定格出力					
終段管	名称個数				
	電圧	V	V	V	V
❺ 送信空中線の型式		単一型		周波数測定装置	A有(誤差　　)B無
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している。		添付図面	□送信機系統図

❶はDJ-Z10を購入されたお客様の記入例、❷はDJ-Z40を購入されたお客様の記入例です。

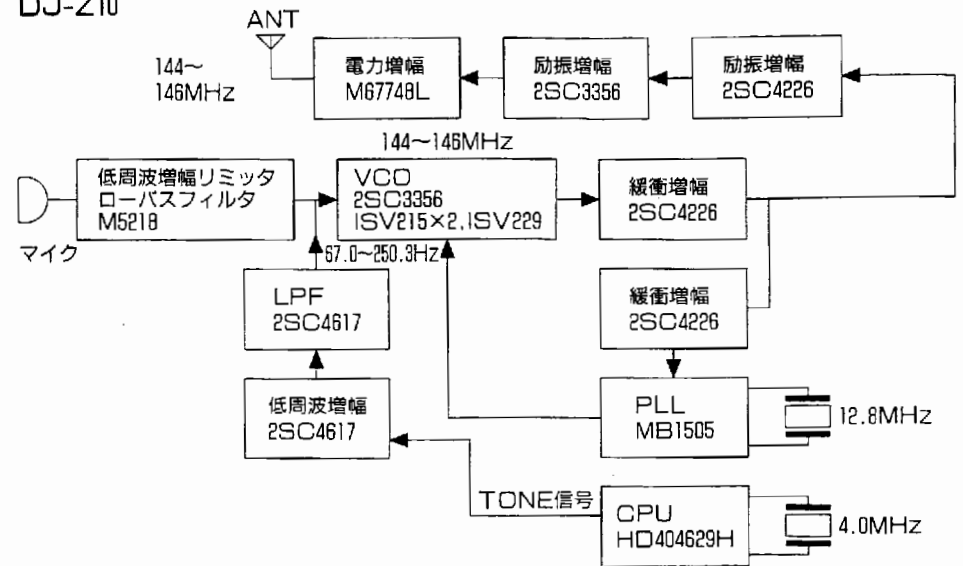
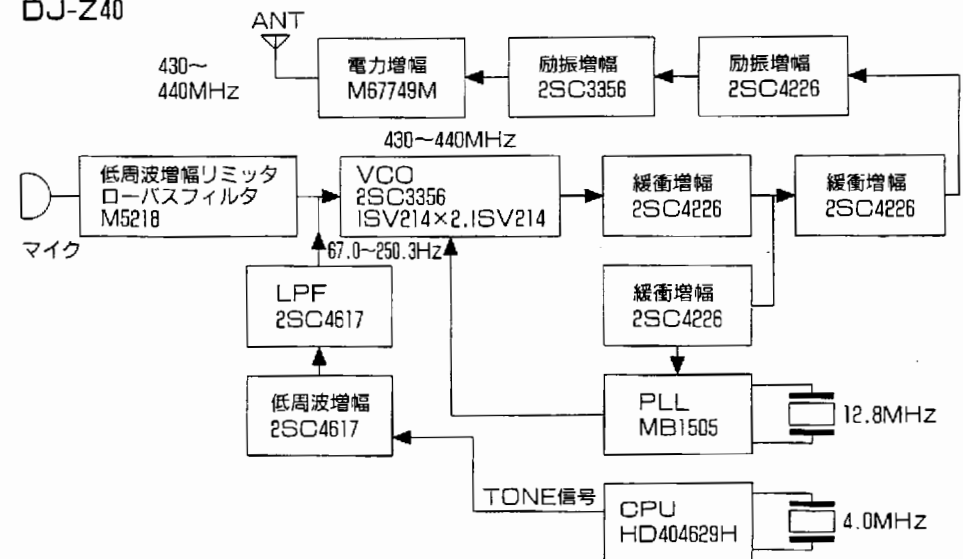
❸トランシーバー本体に貼られている「技術基準適合証明ラベル」の番号をご記入下さい。

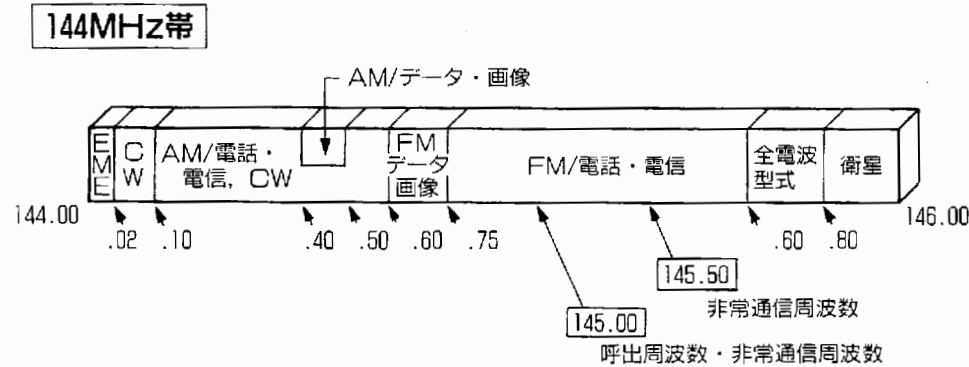
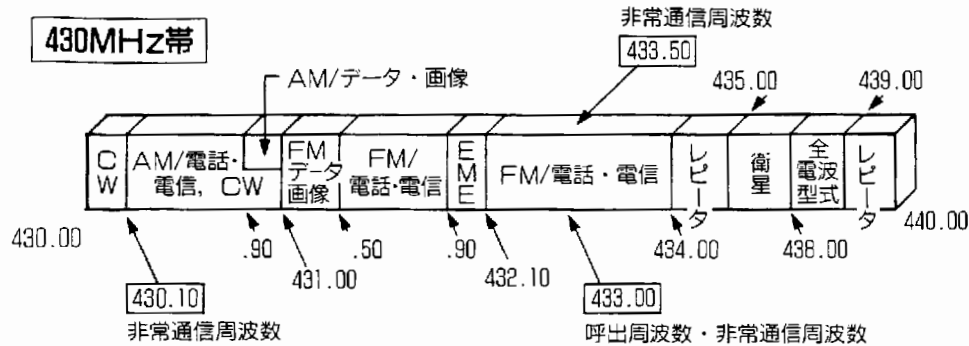
技術基準適合証明シール
番号は無線機毎に異なります。

❹「技適証明送受信機」ですので省略できます。

❺使用する空中線の形式を記入して下さい。(付属のアンテナのみ申請する時は"単一型"とご記入下さい。)

11.送信機系統

DJ-Z10

DJ-Z40

12.バンドの区分について

平成 4 年 7 月(改訂)のバンド区分です。

13.オプション

- EBP-30N(7.2V 700mAH ニカド蓄電池)
- EBP-31N(7.2V 1200mAH ニカド蓄電池)
- EBP-32N(12V 700mAH ニカド蓄電池)
- EDC-36(アクティブフィルター付シガライターケーブル)
- EDC-51(急速型バッテリーチャージャー)
- EMS-8(リモコン付スピーカーマイク)
- EMS-9(スピーカーマイク)
- EME-12(ヘッドホンタイプ ヘッドセット)
- EME-13(インナータイプ ヘッドセット)
- EME-4(イヤホンマイク)
- EME-6(プチ型イヤホン)
- ESC-23,24(ソフトケース)
- EBC-6(モービルブラケット)
- EJ-16U(トーンスケルチユニット)

14.定　格

DJ-Z40

■一般仕様

- 周波数範囲：430.000～439.995MHz
  (サブ144.000～145.995MHz)
- 電波型式：F 3 (FM)
- アンテナインピーダンス：50Ω
- 使用温度範囲：－10℃～＋60℃
- 電源電圧
  外部電源：13.8VDC(7.2～16V接続可)
  電池端子： 9.0VDC(7.2～16V接続可)
- 消費電流
  送信時H(13.8V)：約1.6A
  (外部電源)
  送信時H(9.0V)：約1.3A
  (電池端子)
  送信時M：約0.8A
  送信時L：約0.4A
  受信待ち受け時：約55mA
  バッテリーセーブ時平均：約25mA
- 接地方式：マイナス接地
- 寸法(W×H×D)：50×116×37mm
- 重量：360g
- マイクロホンインピーダンス：2kΩ

■送信部

- 送信出力
  H13.8V(DC IN端子)：5W
  H 9.0V(電池端子)：約2.5W
  M：約1W
  L：約200mW
- 変調方式：リアクタンス変調
- 最大周波数偏移：±5kHz
- スプリアス発射強度：－60dB以下

■受信部

- 受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン
  第1中間周波数：30.85MHz
  第2中間周波数：455kHz
- 受信感度(12dB SINAD)
  メインバンド：－15dBμ以下
  (0.18μV)
  サブバンド(VHF)：－10dBμ以下
  (0.32μV)
- スケルチ感度(メインバンド)：－20dBμ以下
  (0.1μV)
- 低周波出力(10%ひずみ時)：200mW以上
  (8Ω)負荷

DJ-Z10

■一般仕様

- 周波数範囲：144.000～145.995MHz
  (サブ430.000～439.995MHz)
- 電波型式：F 3 (FM)
- アンテナインピーダンス：50Ω
- 使用温度範囲：－10℃～＋60℃
- 電源電圧
  外部電源：13.8VDC(7.2～16V接続可)
  電池端子： 9.0VDC(7.2～16V接続可)
- 消費電流
  送信時H(13.8V)：約1.5A
  (外部電源)
  送信時H(9.0V)：約0.9A
  (電池端子)
  送信時M：約0.6A
  送信時L：約0.4A
  受信待ち受け時：約55mA
  バッテリーセーブ時平均：約25mA
- 接地方式：マイナス接地
- 寸法(W×H×D)：50×116×37mm
- 重量：360g
- マイクロホンインピーダンス：2kΩ

■送信部

- 送信出力
  H13.8V(DC IN端子)：5W
  H 9.0V(電池端子)：約2.5W
  M：約1W
  L：約200mW
- 変調方式：リアクタンス変調
- 最大周波数偏移：±5kHz
- スプリアス発射強度：－60dB以下

■受信部

- 受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン
  第1中間周波数：30.85MHz
  第2中間周波数：455kHz
- 受信感度(12dB SINAD)
  メインバンド：－16dBμ以下
  (0.16μV)
  サブバンド(UHF)：－10dBμ以下
  (0.32μV)
- スケルチ感度(メインバンド)：－20dBμ以下
  (0.1μV)
- 低周波出力(10%ひずみ時)：200mW以上
  (8Ω)負荷

※JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法で測定したものです。(一部社内測定法を含む。)